

日医発第 1115 号 (広 30)

令和 3 年 2 月 12 日

都道府県医師会長 殿
郡市区医師会長 殿

日本医師会長
中川 俊男
(公印省略)

菅総理との意見交換について

都道府県医師会並びに郡市区医師会の会長先生方におかれましては、常日頃より新型コロナウイルス感染症への対応につきましてご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

いよいよ来週からワクチン接種が開始されますが、それに先立ちまして 2 月 10 日には総理官邸を訪問し、菅義偉内閣総理大臣と意見交換をして参りました。

意見交換の中では、菅総理よりワクチン接種体制の整備に対する協力が求められ、私から全国の都道府県医師会・郡市区医師会と共に使命感をもってワクチン接種に全面的に協力する意向をお伝えしました。

別添に当時の意見交換における菅総理並びに私の発言内容をお送りしますので、ご一読下さい。

ワクチン接種は今まで経験したことのない大事業となりますが、今こそ、国民の皆さんに全国の医師会の底力を見せる時と考え、取り組んで参る所存です。先生方にはおかれましては、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

中川会長ご発言

- ありがとうございます。日本医師会は、接種を希望するすべての国民が、安心してすみやかに接種を受けられるよう、全国の都道府県医師会、郡市区医師会とともに、使命感をもってワクチン接種に全面的に協力する覚悟でいます。
- しかしながら、現状、地域の現場では正しい情報を確認できない状況です。正確な情報をスピーディーに滞りなく発信していただくようお願いいたします。
- これだけの接種を進めるためには、地域の実情にあわせた柔軟な対応が必要です。特に基礎疾患のある高齢者の方に対しては、普段の健康状態を把握しているかかりつけ医による個別接種が望ましいケースもあると考えます。政府におかれましては、既成の枠にとらわれない多様なあり方をお認めいただくようお願いいたします。あわせて、接種体制を下支えする幅広い支援および手続きの徹底的な簡素化をお願いいたします。
- また、ただいまお話しいただきました、V-S Y Sへの追加登録、新たなデータベースの整備については、接種の進捗や有効性・安全性の検証のための情報を収集するために重要であることを認識しています。ただし、今回は現場としても精一杯の対応になります。接種そのものの業務にさしさわりのないよう、できる限り現場の追加負担が発生しないようご相談させていただきたいと思っております。
- 地域医療を担う医師一同、いまこそ、底力を発揮して地域住民につくすときだと気を引き締めています。これまでにない覚悟をもって、日本医師会をはじめ全国の医師会は、かつて経験したことのない大事業である国のワクチン接種事業に全面的に協力してまいります。

総理ご発言

- 現在、政府としては、2月中旬に医療関係者への接種を開始し、高齢者については4月から接種したいと考えている。
これまで、地区医師会や地域の医療機関が、各自治体と力をあわせて、接種体制の構築に向けた準備を進めていただいていることに、感謝申し上げたい。
- ワクチンは、感染対策の決め手であり、何としても、全ての国民の皆さんに、安心して接種していただける体制を構築することが、国の責務だと考えている。このため、都道府県や市町村と連携しながら、政府一体となって万全な接種体制を整備すべく準備を行っているところである。
このためには、地域の医療機関の方々のご協力が不可欠であり、是非、接種の実施にご協力をお願いしたい。
- なお、自治体のワクチン接種事務の費用については、国が全額負担すると申し上げてきたが、市町村のご意見を踏まえ、当初想定した補助額をほぼ倍増することとした。地域の医療機関の方々にご協力いただくために必要な経費を、しっかりと支援していきたいと考えている。
- また、V-SYS（バイ・シス）への登録は、接種状況の把握のために必要であり、ご協力いただきたい。さらに、接種履歴の迅速な確認のため、接種者管理のためのデータベースの整備を検討しており、ご承知おきいただきたい。
- 日本医師会におかれては、引き続きリーダーシップを発揮いただき、ワクチン接種体制の整備への格段のご支援を賜りたい。